

# 第3回抗加齢内分泌研究会学術集会

—メラトニン研究の最近の進歩と医療への応用—

## プログラム ※変更になる場合があります

- 10:00~10:05 **開会の挨拶**  
折茂 肇 (健康科学大学)
- 10:05~10:35 **メラトニンとは (オーバービュー)**  
服部 淳彦 (東京医科歯科大学)
- 10:35~11:35 **口腔顎顔面領域におけるメラトニン**  
「歯の発生とメラトニン」  
里村 一人 (鶴見大学)  
「唾液腺とメラトニン」  
下間 雅史 (鶴見大学)
- 11:35~11:55 **質疑応答**
- 11:55~13:00 **昼食**
- 13:00~13:45 **教育講演「植物とメラトニン」**  
江面 浩 (筑波大学)
- 13:45~14:25 **骨とメラトニン**  
服部 淳彦 (東京医科歯科大学) 池亀 美華 (岡山大学)  
矢野 幸子 (JAXA) 鈴木 信雄 (金沢大学)
- 14:25~15:45 **放射線とメラトニン**  
「放射線の生体障害とメラトニンの防御効果」  
安西 和紀 (日本薬科大学)  
「放射線性腸障害に対するメラトニンの効果」  
物部 真奈美 (農業・食品産業技術総合研究機構)
- 15:45~16:25 **がんとメラトニン**  
小林 陽一 (杏林大学)
- 16:25~16:45 **質疑応答**
- 16:45~17:30 **パネルディスカッション**  
「私のメラトニン使用経験から」
- 17:30 **終了**

認定単位  
日本抗加齢  
医学会  
5単位

抗加齢内分泌研究会も3回目を迎え、今回は横浜市の鶴見大学会館で開催されることとなりました。

第1回の研究会に続いて、今回のテーマは再び「メラトニン」とさせていただきます。メラトニンには催眠作用のほかにも、骨代謝に対する作用や中枢神経系に対する作用、生殖機能に対する作用や抗酸化作用など多くの生理的作用があることが明らかとなってきています。しかしながら、その合成酵素や受容体の発現分布などを見ると、今後さらにさまざまな生理作用が明らかとなってくるのが期待されます。このことは、取りも直さず、メラトニンが多くの疾患の予防や進行抑制、治療に利用できる可能性を示しているものと考えられます。このような観点から、今回の研究会では、骨代謝に対する作用についての最新の知見とともに、口腔顎顔面領域でのメラトニンの応用の可能性、癌治療とメラトニン、放射線防護とメラトニン等のテーマでの講演を企画させていただきました。また、今回は最後にメラトニンの使用経験のある方々によるパネルディスカッションを開催致します。是非ご自身の経験をご紹介ください。

発表希望の方は裏面の申込書にてお申し込みください。

第3回抗加齢内分泌研究会学術集会会長  
里村 一人 (鶴見大学歯学部口腔内科学講座教授)

日時：2011年9月4日(日) 10:00~17:30  
会場：鶴見大学会館 (横浜市鶴見区豊岡町3-18)  
主催：日本抗加齢医学会分科会 抗加齢内分泌研究会  
日本抗加齢医学会単位認定【5単位】受験用/更新用  
会長：里村 一人 (鶴見大学歯学部口腔内科学講座)

## お問い合わせ先

抗加齢内分泌研究会事務局 (日本抗加齢協会内)

TEL : 03-5572-6500 FAX : 03-5572-6801 E-mail : hormone@anti-aging.gr.jp

## 参加申込方法

裏面の必要事項をご記入の上、FAXもしくはメールにてご応募願います。参加費の納入確認後、参加登録完了の通知をメールもしくはFAXにてお送り致します。